

## 学ぶことより、楽しむことを第一に

「登別ときめき大学は、自分の好きなときに、好きな内容のものだけ、受講して良いんです。私自身も、楽しむことを一番に、無理せず受講していたら、いつの間にか500単位を取得していました」と笑みをこぼす荒関さん。

平成23年度に『登別市ときめき大学』と『登別市婦人短期大学』を統合して誕生した『登別ときめき大学』。年齢や性別を問わず、生涯を通して学ぶことができる市民大学として、多くの市民が、社会や歴史、文化など、さまざまな分野をテーマとした講座を受講しています。

「職場で管理部門に配属され、それまで関わっていなかったさまざまな分野の業務に携わるようになったんです。そのときに、知らない世界を学ぶ楽しさを知り、退職を機に新たな



▲これまでの受講歴を振り返ることができ『登別ときめき大学手帳』は受講者の証

職を機に新たな気持ちで申し込みました」と登別ときめき大学との出会いを教えてくださいました荒関さん。「毎年、趣向を凝らした

幅広い講座が用意されています。その中でも、現地に行く社会見学が好きです。温泉が湧き出る湯元など、普段なかなか行くことのできない場所で、教えてもらう歴史など、いつも学ぶというより楽しんでいきます」と、登別ときめき大学の魅力を教えてくださいました。

## いつまでも学び続けたい

「自分の好きな講座はもちろん、あまり関心のなかった講座を受けてみるのも楽しいのではないのでしょうか。単位数を記録する『登別ときめき大学手帳』が増えていくことも楽しみの一つです。楽しみ方は人それぞれ。私が誘って参加するようになった妻も、200単位を超え、平成29年度に『学士』の称号を受けました」という荒関さん。

「次の目標は1千単位」と意気込みを語る荒関さんは、これからも『登別ときめき大学』で学び続けていきます。

『登別ときめき大学』を受講してみたい方や講座の内容について知りたい方は、社会教育グループ（☎881129）に問い合わせいただくか、市教育委員会ウェブサイトをご覧ください。



KIRARI

あら ぜき よし ひろ  
**荒関 芳弘**さん (常盤町)

3月9日(土)、登別ときめき大学の平成30年度最終講座を前に行われた受講生称号授与式で、3人目となる総長奨励賞の称号を受けた荒関芳弘さん。同大学では、通算取得単位数が200単位から100単位ごとに『学士』、『修士』、『博士』、そして、500単位で最高位となる『総長奨励賞』の称号を授与しています。前身となる『登別市ときめき大学』の頃から受講を重ね、数多くの単位を取得してきた荒関さんに、受講を続ける思いについて伺いました。

## 学ぶ楽しさを多くの人と共有したい



昭和17年、余市郡余市町生まれ。76歳。  
昭和51年、家族と共に登別市に転入。これまで町内会をはじめとした地域のさまざまな活動に積極的に関わる。平成25年4月から、常盤町内会の会長を務める。